

終戦直後における盆踊り復興活動とヒット曲
—新作盆踊り「ヘイワ・オンド」を事例に

柴台 弘毅(埼玉学園大学 人間学部 専任講師)

「ヘイワ・オンド（平和音頭）」は第二世界大戦の終戦後、最初のお盆を迎えるにあたり、1946年に講談社系列のレコード会社、キングレコードで制作され、同社からレコードが発売された新作盆踊りである。作詞は「リンゴの唄」で知られるサトウハチロー（山野三郎名義）、作曲は「ああ我が戦友」で知られる細川潤一、振り付けは児童舞踊家や童謡詩人として知られる賀来琢磨、歌唱は当時の人気歌手である林伊佐夫、岡晴夫、徳太郎、都能子（織井茂子）、キング合唱団が担当し、岡の「東京の花売り娘」とともに流行歌のレコードとしてヒットを記録した。「ヘイワ・オンド」は「戦後キングの盆踊りレコードでは最大のヒット曲」（読売新聞 1962.3.21）として1961年までSPレコード盤の生産が続けられ、EPレコード盤への切り替えを経て、1965年と1976年には新録音のリメイク盤が相次いで発売されるなど、同社保有の息の長いヒット曲として存在感を保ち続けていた。また、終戦直後の様子を記録した報道記事や小説、エッセイ、広告などにおいて、同楽曲が盛んに踊られていたエピソードが残されている。こうした記録から、「ヘイワ・オンド」は終戦直後の盆踊りレパートリーとして全国各地で広く親しまれていた実績をうかがい知ることができる。

それゆえ、「ヘイワ・オンド」は「東京音頭」の系譜に連なる大手レコード会社制作の新作盆踊りであり、その中でも特に大きな商業的成功を収めた楽曲だといえる。一方で、興味深いのは、同楽曲のヒットは、大手レコード会社主導によるプロモーション活動だけで成し遂げられたものではなかった点である。同楽曲は企画段階からキングレコードと「曹洞宗とのタイアップ」（キングレコード編『キングレコードの六十年』1991:16）によって制作が進められ、その大規模な完成発表会は、永平寺と並ぶ曹洞宗の大本山（中心寺院）、神奈川県横浜市鶴区にある總持寺境内において開催された。（神奈川新聞 1946.6.27）その様子はNHKなどの大手マス・メディアを通じて全国へ報じられ、「曹洞宗社会部制定」と喧伝された「ヘイワ・オンド」のレコードとその踊りは、曹洞宗を中心とする仏教関係者たちによる宗派を超えた草の根的な活動によって、全国各地へと広められていったのである。

本報告では、一次資料を用いて「ヘイワ・オンド」の制作と流行の過程を明らかにすることによって、第二世界大戦終戦直後の盆踊り復興をめぐる大手レコード会社、キングレコードと、曹洞宗を中心とする仏教界の取り組みについて考察する。